

ソーシャルデザインに関わる Web の動向

Google サジェストから見えてくる「ソーシャルデザイン」への期待

The Current State of Websites Related to "Social Design"

●井上 貢一 / 九州産業大学芸術学部

Koichi Inoue / Kyushu Sangyo University

● Keywords Social Design, Information Design, Web Design

1. はじめに

3.11 以後、我が国では「ソーシャルデザイン」という言葉をあちこちで見かけるようになった (図 1)。デジタル大辞泉には「どのような社会を築いていくかという計画。社会制度から生活基盤の整備に至るまで非常に幅が広い」¹⁾とあり、また寛裕介 (2013) によれば、それは「森の中に道をつくる」²⁾活動である。しかし「グラフィックデザイン」のような言葉とは異なり、対象が多岐に渡ることから、社会全体に具体的なイメージが共有されているとは言い難い状況である。

そこで本研究では、ソーシャルメディアが群居する Web と

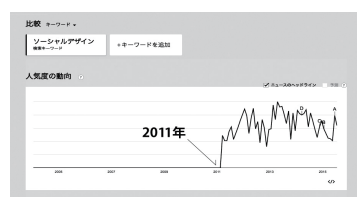


図 1. GoogleTrends による検索行動の推移

いうフィールドに特化して、「ソーシャルデザイン」の現状俯瞰を試みた。以下、便宜的に閲覧側の動向と記事を提供する側の動向とに分けて報告する。

2. ソーシャルデザインに関心を示す閲覧者の動向

ソーシャルデザインに関する様々な記事がある中で、閲覧者がどのような情報を求めているのか、Google サジェストによる注目キーワードの抽出を行った。Google サジェストは、過去の統計情報にもとづき、入力中の検索ワードの次に想定される絞り込みキーワードをサジェストする機能である。表 1 は、最初のワードとして「ソーシャルデザイン」を入力後、「a」、「b」の順にサジェストされる絞り込みキーワードを列挙したものである。尚、検索結果が 50 万件を超えるものを太字で、また必要に応じて参考情報を括弧書きで補足している。

表 1. Web 検索におけるソーシャルデザイン 絞り込みキーワード

a アイデア アイデアインク アカデミーヒルズ amazon アス (団体名) アトラス (書名) アメリカ アワード アート ビジネス 募集 カフェ カンファレンス 大学 団体 電子書籍 電通 エンジン 英治出版 greenz (団体名) グラフィック 学会	b フェア ファッション ヒカリエ 日立 博報堂 本 福井 (崇人) 福島 (有二) i イベント インターン 意味 j 事例 実践 k 課題 コミュニティ コンペ 企業 講座 海外 会社	関西 感想 希望をつくる 紀伊国屋 求人 兼松 (佳宏) 建築 研究 研究所 寛 (裕介) 高齢者 神戸 株式会社 i ラボ m メディア 学ぶ 問題 村田 (智明) まちづくり まとも 水辺 マーケティング	n NPO ニュース 長沼 (博之) 鍋 日経 日本 並河 (進) 名古屋 o 沖縄 音 大阪 p プロジェクト 理工学研究科 r 立教 例 論文 s サイト セミナー 採用 札幌 仕事 就職	渋谷 社会をつくる 書評 商店街 震災 世界一受けたい授業 静岡 仙台 宣伝会議 t 地域 とは 図書館 定義 東京 u wiki w ワークス (社名) y ヨーロッパ 横浜 山崎 (亮) z 雑誌
--	---	--	--	--

次に、表 1 の絞り込みキーワードを用いて、実際に上位にヒットする記事を調べてみた。Google の検索エンジンは閲覧者の過去の行動に基づき、ページランクを閲覧者の関心事に最適化するので、上位の記事から閲覧することで、一般の関心事を推察することができる。調査は 2015 年 8 月 1 日から 5 日の間、筆者個人のアカウントはログオフし、バイアスがかからない状態で検索した。検索地は福岡である。以下、推察される閲覧者の関心事を 5 つに分類して概説する。

1) 定義 とは / 意味 / wiki

辞書サイトや言葉の定義を明記した団体のサイトがヒットする。wiki というワードは Wikipedia の記事を探るものだが、現時点で日本語版には記載がない (英語版には存在)。ソーシャルデザインという言葉そのものへの関心が窺える。

2) 事例・課題 アイデア / 問題 / ニュース / 地域 / 震災

様々な取り組みを Web マガジン形式で紹介したサイトや個人ブログ、また関連書籍の記事 (amazon) がヒットする。「課題先進国」日本が抱える自然災害・人口・高齢化・過疎・地域・教育など、その対象は多岐にわたる。「ソーシャルグッド」なアイデアや実践事例、またその対象となる問題 (Problem) と課題 (Issue) への関心の高まりが窺える。

3) イベント・セミナー カフェ / フェア / コンペ / 講座

ヒットする記事は全国各地で開催される様々な事業であるが、大半の記事に以下の 4)、5) にある団体・組織や人物の記載が見られた。NPO が主催するイベントやセミナー、企業が主催するフェアやコンペなどへの関心が窺える。

4) 団体・組織 大学 / 団体 / エンジン / 企業 / メディア

検索結果の上位はいくつかの団体が独占する状態であったが、ソーシャルデザイン活動を行う NPO や CSR を実践する企業のサイト、また関連研究を行う組織への関心が窺える。

5) 人物 福井 / 福島 / 兼松 / 寛 / 村田 / 長沼 / 並河 / 山崎

サジェストされたキーワードは姓のみ (福井・福島も人名) であったが、人物の紹介記事やその著書の紹介記事がヒットする (表 2 では括弧付きフルネームで記載)。活動や出版物で著名な人物への関心が窺える。

記事の検索ボリュームからは、社会が抱える様々な課題と、それを解決する事例・アイデアへの関心が高まっていることがわかった。言葉の定義そのものへの関心も高く、セミナー、講座など、それを学びの対象と考える傾向も窺える。

3. ソーシャルデザインの記事を提供するサイトの動向

次に、検索で上位にヒットする Web サイトを 7 件(順不同)を取り上げ、その特徴を調べた。表 2 は、それぞれのサイトについて、サイト名、管理団体、URL、タグライン（一部筆者要約）、ソーシャルメディアの活用状況、サイトの構築に利用された技術を列挙したものである。尚、技術の分析には



図 2. Wappalyzer による分析結果の表示例

Firefox のアドオンである Wappalyzer を用いた (図 2)。これらサイトの表層からは、以下のような特徴が見える。

1) 投稿記事を中心とした Web マガジンスタイル

最新トピックスを短冊型に列挙し、そこから記事ページへと誘導する Web マガジンスタイルが主流といえる。これは閲覧者の最大の関心が事例記事にあることに対応している。多くのサイトが複数のライター（共同編集者）を抱えており、サイトは一人の管理者が中央集権的に整理するのではなく、各投稿者が記事にカテゴリーとタグをつけることで自律分散協調的に構築されている。これは記事のデータベース化と PHP による抽出プログラムの存在が前提となっている。また、そのビジュアルについては、jQuery 他様々な JavaScript フレームワークの活用で、効率良く統一されている。

2) ソーシャルメディアとの連動

Facebook、Twitter 他ソーシャルメディアのリンクが並ぶのが常態といえる。また 7 件中 4 件のサイトが、Facebook のタイムラインをトップページに埋め込んでおり、記事の投稿先が Facebook へシフトする傾向も見られる。

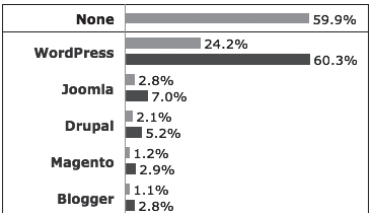
表 2. 検索で上位にヒットする代表的なサイトと Web に採用された機能

greenz.jp	NPO法人グリーンズ http://greenz.jp/ "ほしい未来"をつくるためのヒントを共有するウェブマガジン Facebook / Twitter / Google+ / BI! WordPress / PHP / jQuery / Google Analytics / Chartbeat / Google AdSense
Social Design News	(一社)ソーシャル・デザイン http://social-design-net.com/ 社会をより良くする近未来インスピレーション情報 Facebook / Twitter / Pocket/ Google+ / LinkedIn / BI / LINE / mixi WordPress / PHP / jQuery / Google Analytics
issue+design	神戸市・博報堂 http://issueplusdesign.jp/ 社会課題 (ISSUE) を、市民の創造力 (DESIGN) で解決する Facebook / Twitter / (LINE) MODx / PHP / jQuery / Google Analytics
ミラツク	NPO法人ミラツク http://emerging-future.org/ "未来を創る"をテーマに、より良い社会に向けたイノベーションを生み出す Facebook / Twitter WordPress / PHP / jQuery / Prototype / Script.aculo.us / Google Analytics
スマスタ	NPO法人スマイルスタイル http://smilestyle.jp/ あらゆる境遇の人々が「ふつうのしあわせ」を感じることができる社会づくり Facebook / Twitter WordPress / PHP / jQuery / Modernizr / Yepnope.js
テントセン	プロボノユニット テントセン http://www.tentosen.org/ NPOのソーシャルメディア活用を支援するプロボノユニット Facebook / Twitter / YouTube / RSS WordPress / PHP / jQuery / Google Analytics
Dentsu Social	電通 http://dentsu-social.jp/ 多くの人や企業とともに、アイデアのあるコミュニケーションでより良い社会をデザイン Facebook / Google+ / LinkedIn / Twitter / PHP / jQuery / swf / Google Analytics

3) WordPress (CMS) の活用

投稿記事を中心としたフレキシブルなサイトの構築を実現するためであろう、大半が WordPress を活用している。WordPress は Automattic が開発主導するオープンソースの CMS で、これをベースにすれば高機能なオリジナルサイトが効率よく構築できる。また WordPress ではスマートフォンでの閲覧を視野に、デバイスサイズに応じてスタイルを変更するレスポンシブデザインを標準的な仕様としており、表 2 に挙げた中では、greenz.jp、Social Design News、テントセンの 3 つのサイトがこれを実現している。ちなみに greenz.jp と Social Design News は、ほぼ毎日記事が投稿されている。

ただし WordPress の利用は Web 全般の動向で³⁾、W3Techs の統計では、現在約 40.1% のサイトが何らかの CMS を活用。そのうち 60.3% を WordPress が占めている (図 3)。したがって



59.9% of the websites use none of the content management systems that we monitor. WordPress is used by 24.2% of all the websites, that is a content management system market share of 60.3%.

図 3. CMS に関する W3Techs の現状分析

普通に推測すれば Web 全般の動向がこれらのサイトにも現れている、ということだが、視点を変えれば、ソーシャルデザインの思想を反映したシステムが Web サイトの標準になりつつある…ということもできる。

4. 考察とまとめ

閲覧者は社会が抱える様々な課題と、それを解決するアイデアに関心を寄せており、Web はそれに呼応するかたちで様々な事例を無償で公開する。そこには複数の投稿者が個々の記事を自律分散協調的にアップできる仕組みがあり、それ自体がソーシャルデザインの成果であるともいえる。

UNIX の設計思想⁴⁾の中に、「ひとつのことをうまくやる」、「小さな部品の集合として大きなものをつくる」というものがある。WordPress はもちろん、事例サイトを成立させる様々な技術要素のすべてにそうした自律分散協調の発想があるのだ。

また今回の調査では、「コマーシャル」と「ソーシャル」とを対峙させる記事が多く見られた。これはまさに従来型メディアと Web との対峙に重なるものといえる。V. パパネックが「生きのびるためのデザイン」の中で語るように、アイデアはたくさんあり、またそれらは無償で共有できるものも多い⁵⁾。Web はそれを実現すべく進化しているといっても過言ではなく、アイデア共有の場として、今後のさらなる成熟が期待される。

参考文献

*1 デジタル大辞泉、小学館、<http://www.daijisen.jp/>
*2 筧裕介、ソーシャルデザイン実践ガイド、英治出版、2013
*3 井上貢一、標準 CMS としての WordPress の現状、2013 年度日本デザイン学会第 5 支部研究発表概要集、pp.66-67、2013
*4 Mike Gancarz (芳尾桂監訳)、UNIX という考え方、オーム社、2001
*5 V.Papanek (阿部公正訳)、生きのびるためのデザイン、晶文社、1974